



Annual Report 2023

株式会社エヌ・シー・エヌ
年次報告書 2023

エヌ・シー・エヌの目標

日本に安心・安全な木構造を普及させる。

日本に資産価値のある住宅を提供する仕組みをつくる。

時代がどんなに変わろうと、
エヌ・シー・エヌの理念は創業から変わりません。
それは人が住む家の、
当たり前の安全を確保することであり、
住む人にとっても、この国にとっても、
資産であり続ける家をつくること。

エヌ・シー・エヌは木造建築物に構造計算を行うために
独自の建築システム「SE構法」を開発しました。

地震や台風などの自然災害が多い日本において、
「安心・安全な木構造」を普及させることで、
日本の住宅の資産価値向上と
豊かな暮らしの実現に向けて
事業を展開しています。

トップメッセージ



株式会社エヌ・シー・エヌ
代表取締役社長
田鎖 郁男

2023年4月から2024年3月（第29期）の株式会社エヌ・シー・エヌの活動報告をお届けいたします。
決算報告書などでご報告している経営指標とは別の形で、当社の1年の活動をご覧いただき私たちの活動を支えていただく、多くのステークホルダーの方々からご意見をいただく機会になれば幸いです。

2024年1月1日、能登半島を震源とする大地震が起こりました。マグニチュード7.6、最大震度7を記録する大地震によって、8,221棟が全壊、8万棟以上の建物が半壊・一部損壊の被害となってしまいました。地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、一日も早い復興、復旧を心よりお祈り申し上げます。

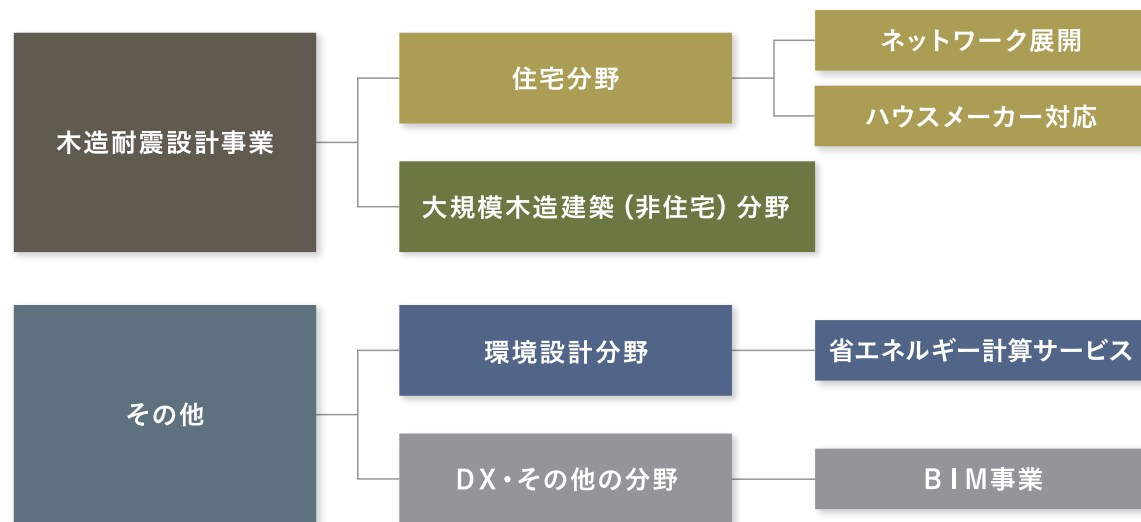
地震の被害が観測された石川県、新潟県、富山県には、612戸のSE構法の家屋が建っておりましたが、倒壊・半壊家屋はありませんでした。このことは偶然ではありません。
「1995年の阪神淡路大震災で木造建物が倒壊し、多くの方々の命を奪った惨状から、日本に真の耐震木造を普及させる」という目標を持ってSE構法を開発し、法律では義務化されていない厳格な構造計算を施した結果です。
今年でSE構法の供給棟数は3万戸を超えます。しかし、日本の木造家屋は約3,000万戸と、SE構法は全体の約0.1%にすぎません。改めて、日本の木造住宅の耐震化を進めるためにSE構法の普及を急がなければという思いを強く感じております。
今期は今まで行ってきた構造計算だけでなく、大地震の各地震波によって建物の揺れなどを予測するシミュレーション（耐震シミュレーション）のサービスも本格的に開始し、「大地震の後も、そのまま住み続けられる家」をテーマにSE構法の普及を加速してまいります。

一方、脱炭素社会に向けた世界的な潮流も進めていくことが、日本の建築において大きな課題となっています。地球環境保護を目的として、日本は2050年カーボンニュートラルの実現を世界に向けて宣言しています。住宅の省エネルギー化はもちろん、公共建築物等の木造化の流れを加速させなければなりません。今後、社会的な要望を受け施設建築等は、鉄骨造・RC造から木造建築へのニーズが益々増大しています。そのような環境下、当社は省エネルギー設計の供給と木造非住宅分野への積極的な投資、木構造技術センター（Timber Structure Lab.）による木造技術開発、施工技術開発を行ってまいります。
当社と目標を共有していただける登録施工店ネットワークは606社を数えるに至りました。工務店・ハウスメーカーの皆様と共に、この大きな社会課題解決に向けて事業を邁進してまいります。
事業を支えていただく皆様に謹んで御礼申し上げます。

事業セグメント

エヌ・シー・エヌは「木造耐震設計事業」を柱とし事業を進めている。
規模や用途から住宅・非住宅に分け、「住宅分野」は全国の登録施工店を通じて、SE構法の構造設計や資材販売などから耐震性の高い木造住宅普及を行う。

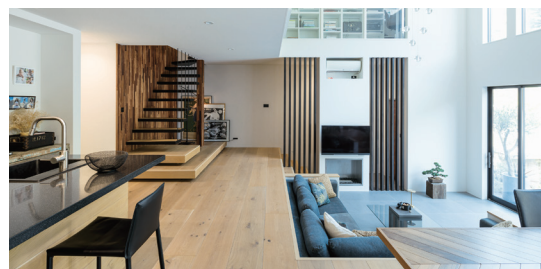
「大規模木造建築（非住宅）分野」は高い技術力と設計力を要する大規模木造の建築をサポートし、難易度の高い特殊施工・加工にも対応している。「その他の事業」として、環境設計分野やDXによる住宅の資産価値向上と省エネルギー住宅の普及と木造建築のDX推進を実現する。



木造耐震設計事業

住宅分野

SE構法登録施工店のネットワークを通じて全国に供給を行う「ネットワーク展開」と、ハウスメーカーを通じて規格型住宅を展開する「ハウスメーカー対応」に分類し、安心・安全な木構造を普及させるべく、木造住宅の構造設計、資材販売などの事業を展開している。



大規模木造建築（非住宅）分野

高い技術力・設計力から、近年注目される非住宅（大規模木造建築）の構造設計や資材販売をサポートする。SE構法の特長を活かした様々な用途の大規模木造建築物と、グループ会社によるSE構法以外の様々な工法へのサポートや難易度の高い特殊加工も手掛ける。



その他の事業

環境設計分野

資産価値の向上のため健康的な快適さと省エネルギーを両立するべく、戸建・集合住宅やリノベーション物件などの、省エネルギー計算や各種性能評価認定などをサポートする。

DX・その他の分野

木造建築物の設計・生産工程において建築物の情報化を行うBIM事業などを行う。

独自の建築システム「SE構法」

自然災害に強く、長く住み続けることのできるSE構法は、資産価値のある木造建築物を提供する

SE(Safety Engineering)構法とは、十分に乾燥させ強度が高く品質の安定した木材を科学的に計算して張り合わせた「構造用集成材」を柱と梁に使い、その柱と梁を専用の「SE金物」で剛接合する。全棟に構造計算を実施し、安心かつ便利に利用できるようにシステム化した独自の建築システムである。

耐震構法
SE構法

優れた耐震性能

従来の木造在来工法に比べて接合部の木材断面の欠損が少なく、大地震で最も壊れやすい柱と基礎の連結部分には、特殊な「柱脚金物」を使い直接連結させることで耐震性を向上させている。
さらに、一般の木造住宅では法律で義務化されていない「構造計算」を全棟に行うことが、SE構法の強さの最大の理由でもある。
鉄骨造や鉄筋コンクリート造と同様に建物の強さを計算することで、創業以来発生した東日本大震災や熊本地震、能登半島地震においてもSE構法で建てられた建築物は、1棟も壊れていない。

開放的な空間設計

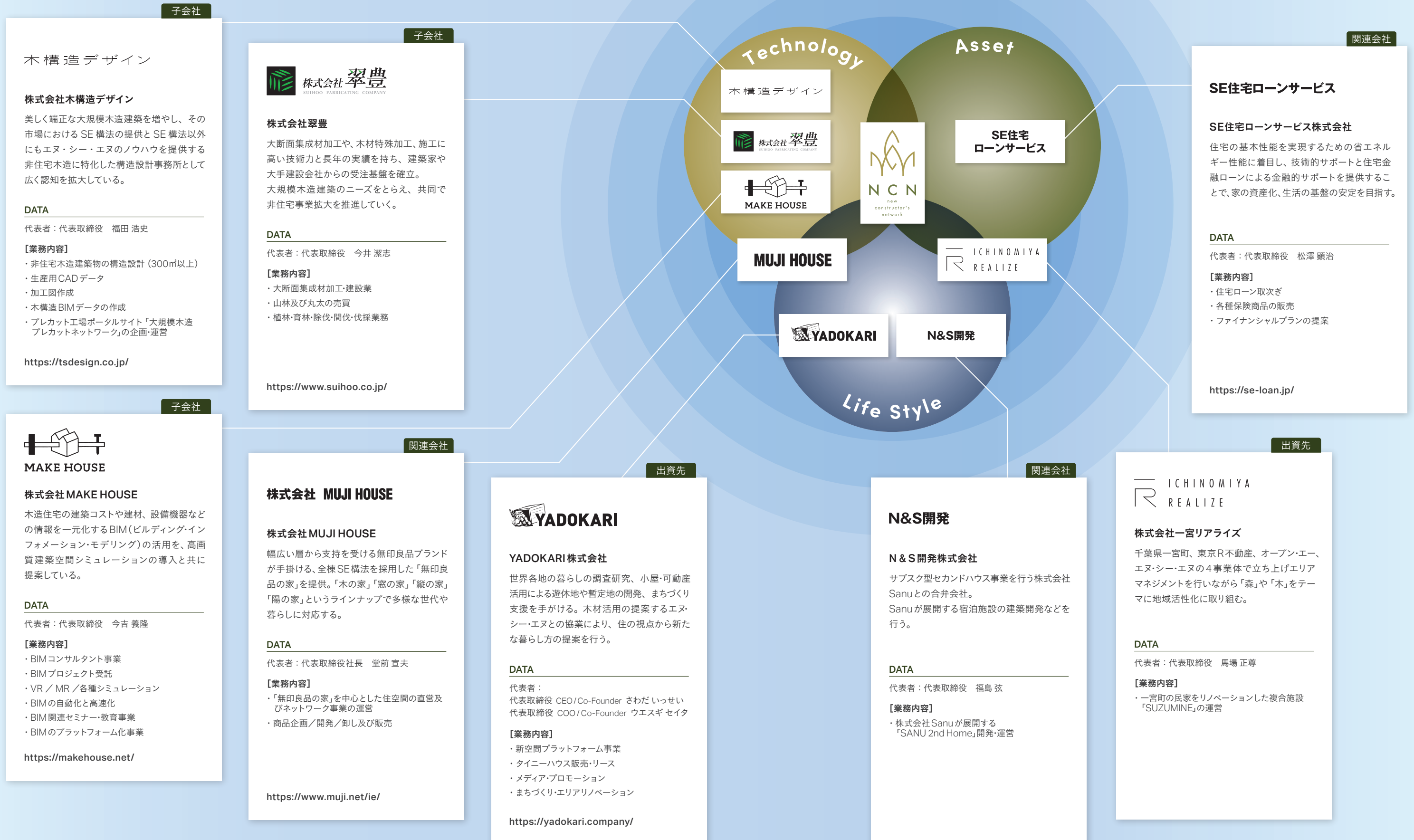
SE構法は住宅においては最大9mのスパンを飛ばすことが可能である。さらに開放感のある吹き抜けや広い開口部なども安全に設計できる。
これは、住まいとしての活用だけではなく、商業施設や幼稚園、倉庫など大規模木造建築としても威力を発揮する。
また、最低限の構造壁で基本設計をすることにより、将来的なリフォームも容易となり、ライフスタイルの変化に住まいが対応することで、長く住み続けられる資産価値の高い住まいを実現する。



エヌ・シー・エヌ グループ

エヌ・シー・エヌは目標の実現に向けて「テクノロジー」「アセット」「ライフスタイル」の3分野で事業をすすめている

耐震性能の高い安心・安全な木造建築物の普及と、住宅の資産価値向上に資するために提供する各種サービスをNCN＝New Constructor's Networkの名前の通りグループ各社が特長ある事業をつなぎ、情報や技術を共有することで幅広く展開している。



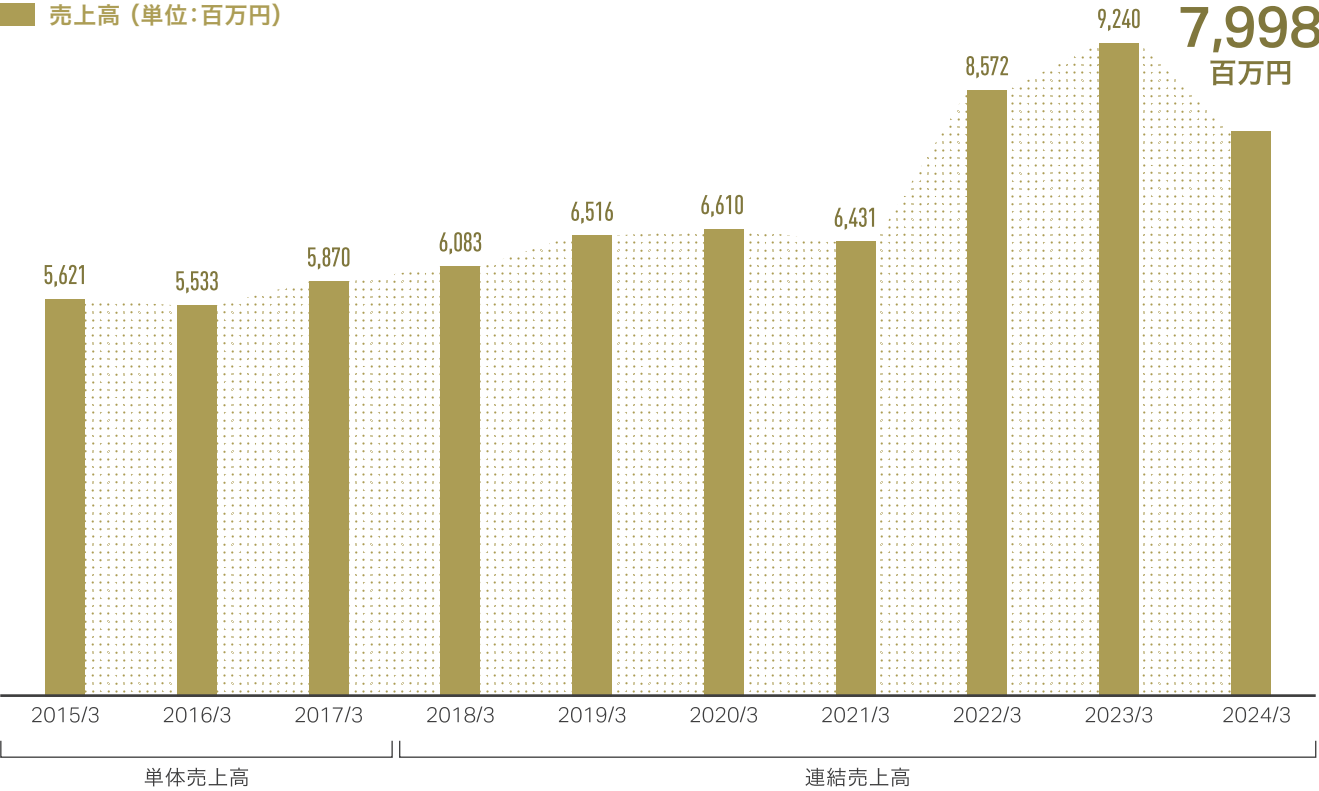
強靱な木造建築を実現する「SE 構法」を基軸に、時代に先駆け木造耐震設計事業を創出するエヌ・シー・エヌ

1996	・株式会社エヌ・シー・エヌを設立	2003	・SE構法を使用した住宅ブランド「重量木骨の家」の供給開始	2010	・SE構法による「チャレンジ25ハウス」がロハスデザイン大賞2010で特別賞受賞 ・SE構法を含むシステムが2010年度「長期優良住宅先導事業」に採択 ・環境設計サービス (現：I 次エネルギー消費量計算サービス) を開始	2015	・耐震住宅100%実行委員会第82回毎日広告デザイン賞 優秀賞受賞 ・耐震住宅100%実行委員会ジャパンレジリエンスアワード2015 最優秀レジリエンス賞受賞 ・「MAKE HOUSE Project」グッドデザイン賞受賞 ・重量木骨の家プレミアムパートナーによる提案が2015年度「地域型住宅ブランド化事業」に採択 ・株式会社MAKE HOUSEを設立	2018	・「家づくり構造計算ナビ」スタート ・「おべんとう展 食べる・集う・つながるデザイン」東京都美術館へ協賛	2022	・合併会社N&S開発株式会社を設立 ・東京証券取引所の株式市場再編により「東証スタンダード」へ移行 ・「国土強靱化貢献団体認証 (レジリエンス認証)」を更新 ・株式会社MAKE HOUSEを完全子会社化 ・株式会社翠豊を連結子会社化 ・東京本社を東京都千代田区に移転
1997	・中断面木造では日本初の本質2方向ラーメン構造となる本質フレームシステムの建築基準法第38条認定取得 ・SE構法の販売を開始	2004	・株式会社良品計画との合併会社「ムジネット株式会社」 (現：株式会社MUJI HOUSE) へ資本参加	2011	・SE構法延べ10,000棟を突破 ・SE構法による認定長期優良住宅1,000棟を突破	2016	・「第11回ロハスデザイン大賞2016 新宿御苑展」に出展 ・宮城県石巻市「Reborn-Art Festival × ap bank fes 2016」に協賛 ・国土強靱化貢献団体認証 (レジリエンス認証) を取得	2019	・東京証券取引所JASDAQスタンダード市場へ上場 ・「いすみフォレストリビング」にSE構法によるアウトドアウッドデッキを提供 ・第18回木質材料・木質構造技術研究基金賞・第二部門 (大熊幹章賞) を受賞 ・YADOKARI株式会社と資本業務提携	2023	・株主総会MUJI HOUSEが農林水産省と「木材利用拡大に関する建築物木材利用促進協定」を締結 ・SE住宅ローンサービス株式会社の株式の一部をパブリックホールディング株式会社に譲渡し合併事業化 ・SE構法による木造5階建対応の構造評定を取得 ・耐震住宅100%実行委員会の策定する「TAISHIN Standards」が2023年度グッドデザイン賞受賞
1998	・SE構法登録施工店100社を超える ・住宅業界初の「SE性能報告書」を発行 ・SELL HOUSE 7人の建築家によるSE構法住宅展」を開催 (参加建築家：押野見邦英・城戸崎和佐・内藤広・難波和彦・平倉直子・古谷誠章・横河健)	2005	・SE構法本質フレームシステムの建築基準法第68条の26国土交通大臣認定を取得 (スキップフロア)	2012	・SE住宅ローンサービス株式会社を設立 ・SE構法本質フレームシステムについて一般社団法人日本建築センターの構造評定を取得 ・長期利用におけるSE構法性能を改善 (ラグスクリュールボルト導入、ラーメンフレーム改良) ・SE構法による実大振動台実験を開始	2017	・SE構法延べ20,000棟突破 ・宮城県石巻市「Reborn-Art Festival × ap bank fes 2017」に協賛 ・横浜美術館「ヨコハマトリエンナーレ2017」に協賛 ・非営利団体「一般社団法人耐震住宅100%実行委員会」を設立 ・「清水次郎長生家」耐震補強工事完成 ・株式会社エヌ・ディ・エヌを吸収合併	2020	・ネットイーグル株式会社との合併会社株式会社木構造デザインを設立 ・SE構法構造加工品の出荷数が創業以来最多を更新		
1999	・日本初の住宅瑕疵に対する保証制度「SE構法住宅性能保証」を開始 ・大阪支店開設	2007	・「インテリアフェスティバル2007」出展 ・「ちょっとプレミアムな私の家と暮らしコンテスト」を開催	2013	・設計事務所ネットワーク事業を株式会社エヌ・ディ・エヌとして分社化 ・重量木骨の家プレミアムパートナーによる提案が2013年度「地域型住宅ブランド化事業」に採択	2021	・「パビリオン・トウキョウ2021」 (東京都内各所) 協賛 ・木造建築物業界初の構造躯体瑕疵保証制度「非住宅版SE構法構造性能保証制度」開始 ・株式会社MAKE HOUSE「MAKE HOUSE BIM BASE」 (東京都品川区)開設 ・株式会社MAKE HOUSE 高画質建築空間シミュレーションサービス「MAKE ViZ」開始 ・「木構造技術センター」 (埼玉県川口市) 開設				
2000	・SE構法本質フレームシステムの建築基準法第38条建設大臣認定を取得 (軒高制限拡大、準防火地域での建築が可能)	2008	・SE構法を含むシステムが2008年度「超長期住宅先導的モデル」に採択	2014	・重量木骨の家プレミアムパートナーによる提案が2014年度「地域型住宅ブランド化事業」に採択 ・耐震住宅100%実行委員会を設立 ・「あなたの残したい建物コンテスト」を開催 ・「MAKE HOUSE木造の新しい原型展」を開催 (参加建築家：鈴野浩一・禿 真哉・谷尻誠・長坂常・中山英之・藤村龍至・藤原徹平・吉村靖孝)						
2001	・木造では国内初の軒高11メートル木造3階建建設 ・特定建設業許可を取得 (国土交通大臣許可 第023620号)	2009	・SE構法で国産材の本格供給を開始 ・長期優良住宅促進法制定に伴い「長期優良住宅支援室 (現：新規事業部)」を開設 ・SE構法を含むシステムが2009年度「長期優良住宅先導事業」に採択								
2002	・木造初のプログラム認定となるSE構法専用プログラム「Wolf-2」の建築基準法第68条認定取得										

所有知的財産権

	国内	海外	出願中
特許	26 件	2 件 (米国)	1 件
意匠	14 件	8 件 (EU・中国・米国・カナダ)	0 件
商標	19 件	6 件	2 件

年度別売上高推移



1

NEWS

株式会社MUJI HOUSEが 農林水産省と 「木材利用拡大に関する建築物 木材利用促進協定」を締結

エヌ・シー・エヌの関連会社である株式会社MUJI HOUSEと株式会社良品計画は、農林水産省と「木材利用拡大に関する建築物木材利用促進協定」を締結し、農林水産省において2023年5月31日に記者発表会を行った。

これは良品計画グループの「建築物の木材の利用に関する構想」および「木材の利用の促進に関する構想」について3社が連携・協力することによりその構想達成の寄与を目的としている。

MUJI HOUSEは、2003年より「無印良品の家」を中心とした建築事業において、「SE構法」を採用した約3,000棟を超える住宅実績がある。その施工実績と「SE構法」の特長である高い耐震性、従来の在来工法では実現が難しい大空間を実現する技術力を今後の店舗の木造化・木質化に活用していく。

さらに、エヌ・シー・エヌにおいてはMUJI HOUSEへ、合理的かつ安全な木構造技術、建築物の省エネルギー化の推進に向けた技術提供、木質部材や供給体制の構築等の取組についての情報提供を行うことで、資源循環型・自然共生型・持続可能な社会の実現に貢献する。



木造店舗イメージ

2

CERTIFICATION

SE構法による 木造5階建対応の 構造評定を取得

脱炭素社会の実現に向けた活動の加速と建築基準法の改正などから、中高層建築物の木造化に対する期待が高まっている。エヌ・シー・エヌは2021年にSE構法の4階建の構造評定を取得し、年々増加し多様化する中大規模木造建築に対応してきたが、2023年5月19日に一般財団法人日本建築センターによる5階建対応の構造評定を取得した。

今回の取得に関しては2022年に開設した自社の研究施設「木構造技術センター（Timber Structure Lab.）」を活用し、5階建建物の要求性能を満足する高強度な耐力壁と、それに対応する高耐力柱脚金物を開発、従来の仕様では困難であった木造5階建に対応する仕様を追加することで評定を取得した。

今回の取得によりSE構法の標準システムで対応できる5階建木造建築の普及型を目指し、これまで住宅建築を手掛けてきた工務店や地方ゼネコンなどが、中大規模木造建築へと事業参画するサポート体制を強化していく。



「SE構法」木造5階建 事務所ビルのモデルプラン

3

AWARD

「TAISHIN100 Standards」 2023年度 グッドデザイン賞受賞

エヌ・シー・エヌ 代表取締役 田鎖郁男が代表理事を務める一般社団法人耐震住宅100%実行委員会が策定した、科学的根拠に基づく耐震基準である「TAISHIN100 Standards(耐震100スタンダード)」を中心とした「TAISHIN(耐震)啓蒙・意識改善活動」が、2023年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞した。

地震が多発する日本において、一般的な木造住宅の多くは万全な耐震住宅とは言いがたい現実から、耐震住宅100%実行委員会では、熊本地震で実際に被災された住宅を対象にシミュレーションを実施。そこで得た科学的根拠から策定した真の耐震基準を「TAISHIN100 Standards」として提案し、「真の耐震基準」普及のための仕組みづくりと啓蒙活動への一連の取り組みが高く評価された。



4

NEWS

大規模木造宿泊施設 「SANU 2nd Home 一宮1st」開業 2024年4月には 2ndも開業

SE構法にて建設した木造の宿泊施設「SANU 2nd Home(サヌ セカンドホーム)一宮1st」が、2023年11月9日、千葉県一宮町に開業した。

プロジェクトマネジメントを行う株式会社Sanuとの合併事業として開発を進めた本物件は、SE構法における大規模木造建築の実績を活かし、都市から自然へ繰り返し通うライフスタイルを送ることができる会員制宿泊サービスとして、1964平方メートルの敷地に木造宿泊施設棟を建設。地域に開くベーカリーカフェやテレワークをサポートするコワーキングスペースも併設し、一宮エリアの新たな滞在拠点として注目されている。



5

NEWS

佐賀県、大分県に
約2,500平方メートルの
大規模木造店舗建設

佐賀県初となるSE構法平屋建ての大規模木造店舗の構造現場見学会を、2024年1月26日にMUJI HOUSEと共催した。本物件はMUJI HOUSEが2023年5月に締結した協定を促進するものとして、設計・施工をMUJI HOUSE、構造設計・環境設計をエヌ・シー・エヌが行った。さらに、SDGs推進の観点からLCA*を考慮し、高効率の空調と換気システムなどによる省エネ（一次エネルギー消費削減）と、太陽光パネルによる創エネ（発電分を自家消費）により『ZEB』**を実現することで高度な環境性能を有する木造建築となった。

***LCA(ライフ・サイクル・アセスメント)**
商品・サービスの原材料調達から、製造・使用・廃棄に至るまでのライフサイクル全体を通して、CO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量や、環境への負荷を定量的に算定する手法。☆5

****『ZEB』(カギゼブ)**
ZEBとは「Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」の略称。建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のことを指す。
4段階のZEBが定性的及び定量的に定義されており、『ZEB』は一次エネルギー消費量の削減率が再エネ含め100%以上かつ再エネを除き50%以上となる建築物。



6

PATENT

建て主が家の強さを
発注するシステム
「家づくり構造計算ナビ」
特許取得

SE構法の住宅を対象に、住宅の安全性を事前に確認できるシステム「家づくり構造計算ナビ」が、2024年1月4日付で特許を取得した。



住宅の設計・デザインは工務店や建築家に依頼できるが、住宅の強度は建て主側からの依頼や発注が難しく、指標になるポイントも明確ではない。さらに、最高値の強さを選択したいが自分では判断しかねるなどの課題もある。

そこで、住宅の構造計算をする際に、建て主の構造性能に対する要望を求めるために「家の重さについて、地震について、風について、中地震時の揺れについて、大地震時の安全性チェック」に、建て主自らがチェックを行う本システムを開発。これによって、自然災害に強い木造建築物の普及と持続可能な社会の実現に向けた取り組みを更に推進していく。

**SE構法は1棟1棟全ての家について
構造の性能をチェックしています**

あなたの家オリジナルの構造計算を行って、構造の安全性を確認しています。では構造の安全性とは何をチェックしているのでしょうか？ 建物に与える影響をおよぼす以下の「5つの力」についてチェックをしています。

家の重さについて
家族の人数や家具などを含めた総重量の重さと、屋根の重さを確認します。ピアノや書庫など、ライフスタイルに応じた部屋の重さや、雪が降り積もった場合の屋根の重さも確認します。家の重さを調べるのが構造計算の基本です。

地震について
地震に対する建物の抵抗力を「耐震等級」を設定し、柱の折れや引き抜きがおきないことを確認します。

風について
建設地による風の強さの違いを考慮した上で、台風時の最大瞬間風速における変形も確認します。風による傾きのチェックをしているのはSE構法だけです。

中地震時の揺れ幅について
中地震（震度4強程度）に対して、家の揺れ幅をどの程度で抑えるかも確認します。モルタルなど外装材の損傷に応じて、変形量も算出できます。

大地震時の安全性チェック
大地震（震度5強程度）で、構造躯体が損壊・崩壊しないことを確認します。（揺れ耐力のチェック）

では、実際にあなたの家をチェックしてみましょう。

7

RESEARCH

令和6年
能登半島地震における
「SE構法」による
建築物被害調査報告

「令和6年能登半島地震」において、住宅への被害が多く見られた石川県、新潟県、富山県のSE構法物件612棟の被害状況の把握を目的に、該当地区の登録施工店を通じて各物件の現状を2024年1月5日から2月5日まで調査した。
結果、住宅倒壊など被害の大きいエリアも含め、「倒壊」「大規模半壊」「半壊」に関する報告はなかった。
新潟県において「一部損傷」に関する報告が1棟あったが、当該建物は新潟市内の液状化による基礎の傾きを確認したもので、SE構法の構造躯体への損傷は報告されず補修可能な建物となっている。
なお、被災地においては引き続き調査を継続していく。

8

NEWS

木造2棟、
約3,300平方メートル
大規模木造複合施設
「センノオト」完成

鹿児島県薩摩川内市にSE構法では最大規模となる九州電力薩摩川内複合施設「センノオト」が、2024年4月に完成した。
「開放感と笑顔あふれる憩いの空間」をテーマに、本館（2,931平方メートル）と別館（443平方メートル）で構成された本物件は木造ラーメン構法のSE構法を採用することによって、高い耐震性能に加えて従来の在来工法では実現が難しい大空間を実現した。エヌ・シー・エヌは、大規模木造建築に利用する木質部材や供給体制の構築等の取り組みについて幅広く情報提供を行い、建築物の木造化・木質化を推進する。



ネットワーク展開

全国に広がる 登録施工店のネットワーク

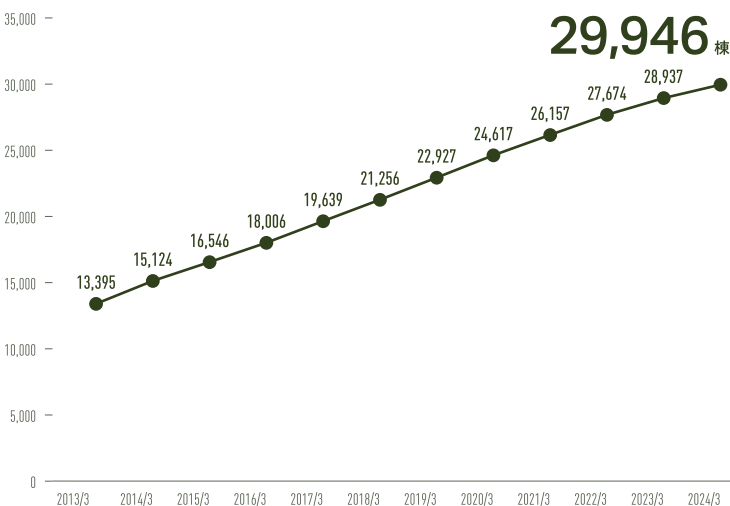
構造計算された耐震性の高い木造建築を実現する独自の建築システムであるSE構法は、工務店を中心とした全国のSE構法登録施工店ネットワークを通じて日本中に広がっている。

2023年度は登録施工店は国内外合わせて606社となった。

2023年度のSE構法構造計算出荷棟数は1,009棟となり前年を下回った。SE構法構造計算の累積出荷数は29,946棟となった。

(2024年3月末現在)

SE構法構造計算 累積出荷棟数



海外

登録施工店

3社

北海道・東北

累計棟数

▲▲▲

登録施工店

37社

北陸・甲信越

累計棟数

▲▲▲▲▲

登録施工店

32社

関西

累計棟数

▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲

登録施工店

136社

九州・沖縄

累計棟数

▲▲▲▲

登録施工店

25社

中国・四国

累計棟数

▲▲▲▲▲

登録施工店

49社

東海

累計棟数

▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲

登録施工店

93社

関東

累計棟数

▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲

登録施工店

231社

SE構法構造計算 累計出荷棟数

29,946棟

(1996年12月～2024年3月)

2023年度 SE構法構造計算 出荷棟数

1,009棟

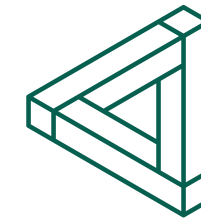
(2023年4月～2024年3月)

SE構法登録施工店

606社

(2024年3月末現在)

▲▲▲▲▲
累計棟数
(100棟)



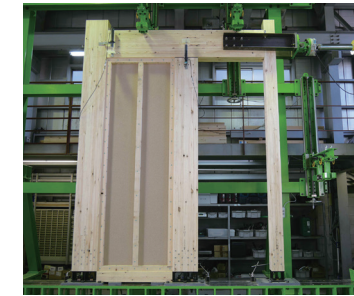
木構造技術センター TIMBER STRUCTURE LAB.

SE構法の追求と 木構造の開発・研究 の構築

エヌ・シー・エヌでは、大地震など自然災害に対するSE構法の安全性の検証として、長年にわたり社外施設を利用して構造実験を実施してきた。しかし年々多様化が見込まれる木構造に迅速かつ柔軟に対応するため、2022年に社内施設として「木構造技術センター（Timber Structure Lab.）」を開設した。

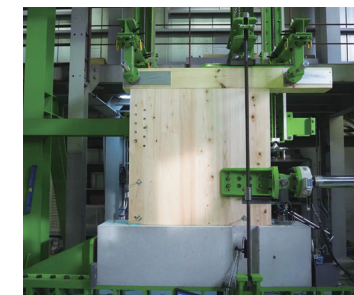
2023年度はSE構法の構造実験を中心に右記の実験を実施した。
「SE構法の追求」「あらゆる木構造の開発」「未来に向けた基礎研究開発」を目的に、住宅規模から中層大規模木造建築物までの木構造に関する基礎研究、応用研究、開発研究、論文発表などを進め、今後も技術資産を引き続き構築していく。

SE構法関連の開発



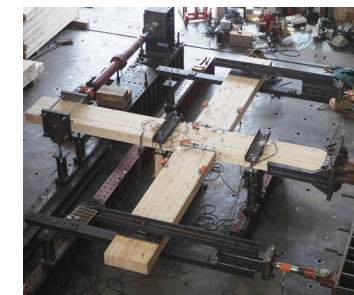
今期は、SE構法の適用範囲拡大を目標に各種実験開発を進めた。住宅向けには、小断面部材に対応した接合部を開発することでコストダウンを図り、非住宅向けには、高耐力壁の開発と大断面部材に対応した接合部を開発することで、設計の自由度を高めることを目的とした。また、SE構法の中高層化を目標として、昨期開発したミッドブライウォールの改良を実施した。これにより、SE構法による4・5階建ての設計自由度の向上が見込まれる。

SE構法以外の開発



Timber Lab. が社外に周知されるようになり、今期は外部からの委託実験をいくつか実施した。そのうち、林野庁の補助事業を2件実施し、1件は、グラウトジョイントと呼ばれる鉄筋コンクリート造の鉄筋継手技術を木構造に応用した構法の開発、もう1件は、近年増加している中高層混構造（下階は鉄筋コンクリート造や鉄骨造で上階が木造のビル）の構造設計指針を作成するための実験の実施である。いずれも成果は公開されており、木構造の発展に繋がることを切望する。

研究関連



昨年度に続き、ラグスクリューボルト（SE構法では商品名:Sボルトとして利用）の基礎研究を実施した。その成果の一部は日本建築学会の年次大会で発表を行った。また、木質ラーメン構造の構造設計において、設計手法が確立されていない課題のいくつかを近畿大学 村上研究室との共同研究として検討し、新たな設計法を論文として発表した。

論文

柱梁接合部のせん断降伏が先行する木質ラーメン架構の開発

2024年5月号

著者：村上雅英、笹野貴子、橋本悠希、小谷竜城

発表：日本建築学会構造系論文集、第89巻 第819号、pp.548-559

木質ラーメン構造における柱-梁接合部のせん断設計法に関する研究(その2): ラグスクリューボルトを用いた接合部のせん断強度に関する実験的研究

2024年6月号

著者：小谷竜城、村上雅英

発表：日本建築学会構造系論文集、第89巻 第820号、pp.582-591

大規模木造建築（非住宅）事業

高い設計力と豊富な実績で、 多様化する大規模木造建築 をサポート

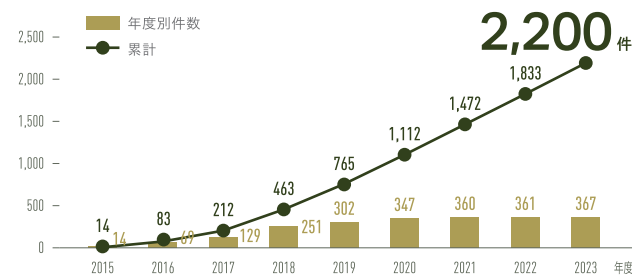
SDGsやカーボンニュートラルへの取り組みなど、環境に対する企業姿勢が強く意識される時代が継続している。そのような状況下で脱炭素社会に向けて注目度の高い手法として建築物の木造化が注目されている。

エヌ・シー・エヌの大規模木造建築（非住宅）事業は、SE構法による大規模木造建築に対応する特建事業部、在来工法や2×4工法などによる非住宅物件の構造計算を行う木構造デザイン、また高い技術力で木材の特殊加工や施工を行う翠豊と、エヌ・シー・エヌグループ全体で多様化、大型化する物件へ対応することで、大規模木造建築事業の成長を加速させている。

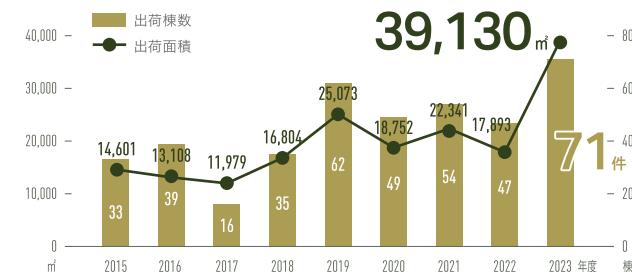
また、現場で構造躯体を間近に見る構造見学会や、木造建築未経験の設計者などを対象にしたセミナーなどを通じて大規模木造建築への魅力と理解の深化も行いながら、事業体制を構築する。



大規模木造建築 受付累計数



大規模木造建築 構造体出荷面積と構造体出荷棟数



環境設計事業

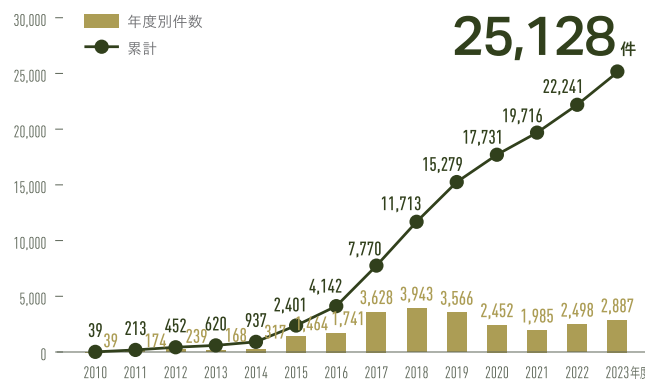
省エネと健康快適を両立した 建築物の普及に取り組む

環境設計事業では、カーボンニュートラルの実現に向け、省エネ計算やBELS評価書の取得をサポートしている。省エネ性能向上により、補助金や税制/金利優遇を建築主が享受できる様にコストを抑制した断熱/設備仕様のコンサルティングを、建築・不動産業者向けに行っている。住宅分野では、ZEH化や東京ゼロエミ住宅のコンサルティングを行い、新築だけでなく集合住宅のリノベーション時のZEH化提案においても業界をリードする。非住宅分野では、ZEBプランナーとして、2000㎡を超える大規模木造建築物の「ZEB」化と補助金申請支援を複数行うなど、先駆者的な取り組みを行なっている。

エヌ・シー・エヌの環境設計事業では、「省エネと健康快適を両立する建築物の普及」を目的に、工法を問わず性能の見える化と向上を推進する。



省エネルギー計算サービス 累計数



エヌ・シー・エヌ Website

本サイトは、エヌ・シー・エヌのコーポレートサイトの役割を担っており、事業案内や社会貢献への取り組み、プレスリリースやIR採用情報など、企業情報を掲載している。

さらに、事業の根幹である「SE 構法」に関するコンテンツを充実させている。住まいづくりを検討しているエンドユーザーに向けて、構造計算を紹介する動画や施工事例、全国の登録施工店検索を掲載。さらに今年度はSE構法の耐震性や柔軟なプランを訴求するコンテンツを増強し、平均127,000PV/月間で推移しながら、全国の登録施工店WEBサイトへのリンクとして平均5,700人/月間の送客を行っている。

また、SE構法の導入を検討している工務店・設計事務所などの企業向けに、SE構法の説明や施行方法を紹介する動画などで、SE構法の特長を紹介している。

登録施工店専用サイト「ビジネスオンライン」では、SE構法の物件受付や省エネルギー計算など各種サービス窓口を設けるほか、技術研修会のご案内、施工や営業に関する解説動画など、登録施工店をサポートする多彩なコンテンツを提供している。



エンドユーザー向けSE構法ページ



工務店・設計事務所向けSE構法ページ

Websiteに関するデータ	
月平均セッション	78,000
月平均PV	127,000
月平均SEリンク	5,700

(2023年4月～2024年3月)



Vol.15 ガレージのある家

- 人も暮らしも変わる時代
これからの理想の住まいとは？
- デザイン力のある工務店とつくる
「ガレージのある家」実例・10
- モデルハウスに行こう！
構造材に純国産を活用した究極のエコハウス
- 木の家をつくる あこがれのガレージハウス
- 良い工務店を見極める15のチェックポイント



Vol.16 未来につながる家

- 安心・安全で楽しい「木の家」の魅力をもっと知るために SE構法の現在から未来へ
- 自由な広がり魅力放つ「未来につながる家」実例・11
- モデルハウスに行こう！
吹き抜けのコンサバトリーがもたらす非日常
- 未来の木の家を考えよう
- 良い工務店を見極める15のチェックポイント

ML WELCOME 木の家で暮らそう

ラグジュアリーな住宅を紹介する雑誌『モダンリビング』の別冊として、2015年10月から発行している。

エヌ・シー・エヌと連携し、資産価値の高い住宅の普及を目指す提案力と技術力を持つ工務店ネットワークである「重量木骨の家プレミアムパートナー」がSE構法で建てた住宅の中から、モダンリビング編集部が厳選した最新実例を紹介する。

その他、最新のモデルハウスの紹介やプレミアムパートナー全リストなど、家づくりを検討するエンドユーザーに向けて、SE構法の魅力を発信する。

2023年度年はVol.15、Vol.16を発行した。

発行：ハースト婦人画報社



『ML WELCOME』発行記念イベント コウケンテツ氏トークショー

『ML WELCOME Vol.16』の発行を記念して、料理研究家・コウケンテツ氏をゲストに迎え、『MODERN LIVING』編集長・高坂敦信氏とのトークショーを2024年1月28日、二子玉川 鳥屋家電で開催した。

「住まいがもたらす豊かさ」をテーマに、料理や食を通じた家族とのコミュニケーション、理想のキッチンや住まいなどの楽しい話に満員の会場は盛り上がった。



Network SE

エヌ・シー・エヌの機関誌として隔月発行する『Network SE(ネットワークSE)』は、時流を捉えた特集、SE構法による住宅や大規模木造建築の施行事例、建築家や様々な専門家へのインタビューなどを掲載。SE構法登録施工店をはじめ、設計者、ゼネコン、教育機関などに配布し、安全とデザインの未来をひらくSE構法の最新情報を幅広く伝えている。

2023年度はVol.186～Vol.191を発行した。

Vol.186

- 巻頭インタビュー みんなが幸せになれる場所を、みんなでつくる
谷口千春 (minagarten代表)
- 事例 「アクシスホールディングス新社屋」
「川西N邸」
- 木造の21世紀を考える 空間をつくる
鈴木侑 (建築家)
- より良い住まいの道しるべ 谷田泰 (株式会社タニタハウジングウェア代表取締役社長)
- 私の家 「Houses」 畝森泰行 (建築家)

Vol.189

- 巻頭インタビュー これからの建築生産者の生き方を考える
松村秀一 (早稲田大学 研究員教授)
- 事例 「Coconimo SAIDAIJI」
「THE PREMIUM ONE GALLERY」
- 木造の21世紀を考える 愛される建築のつくり方をめぐって 大西真麻 (建築家)
- より良い住まいの道しるべ 突板化粧合板で、室内に様々な風景をつくる
安多成一 (安田化粧合板株式会社 代表取締役社長)
- 私の家 「動的な清々しさをめざす」
伊藤睦 (建築家)

Vol.187

- 巻頭インタビュー 住む人によって「育てられる」家がいい
山田節子 (コーディネーター)
- 事例 「ノバシステム淡路島保養所」
「AGING WELL SHOW HOME」
- 木造の21世紀を考える 突き抜けた未来
石上純也 (建築家)
- より良い住まいの道しるべ 中野要 (日本ベルックス株式会社 営業推進室)
- 私の家 「三家ランド」 三家大地 (建築家)

Vol.190

- 巻頭インタビュー 個の資産がまちを面白くする
深野弘之 (「ニシイケパレイ」オーナー)
- 事例 「デイスーパーセンターしおかぜ お台場」
「三原久井の家」
- 木造の21世紀を考える 内なる自然を追求する
旅路 室伏次郎 (建築家)
- より良い住まいの道しるべ 木の風合いが感じられる厚さ0.6ミリの突板
安多成一 (安田化粧合板株式会社 代表取締役社長)
- 私の家 「YY house-office-kitchen」
吉田州一郎 (建築家)、吉田あい (建築家)

Vol.188

- 巻頭インタビュー 中大規模木造の多様なアイデアの受け皿として
今井潔 (株式会社翠豊 代表取締役)
- 事例 「RENOEL(リノエル)」
「大船H邸」
- 木造の21世紀を考える 科学とデザインの交差する先へ
中川純 (建築家)
- より良い住まいの道しるべ 中野要 (日本ベルックス株式会社 営業推進室)
- 私の家 「谷中の公園のとなり」
宮崎晃吉 (建築家)

Vol.191

- 巻頭インタビュー デジタル技術を活用し、広業樹に多様な出口を
岩岡孝太郎・松本剛 (株式会社飛騨の森でクマは踊る 代表取締役社長)
- 事例 アーキテックス新社屋「LIFE STUDIO」
「TOAHOME新社屋」
- 木造の21世紀を考える ひとりひとりの物語を編み上げる
富永美保 (建築家)
- より良い住まいの道しるべ 家への愛着が増す、インテリアイベントによる色の演出
秋山千恵美 (株式会社カラーワークス取締役副社長、カラーデザイナー)
- 私の家 「甲陽園の家」 畑友洋 (建築家)

広報活動

フリーパブリシティ

プレスリリースを配信した事業報告やSE構法による大規模木造建築や住宅の竣工など、多様な方面の記事が木材、建築、住宅関連の業界誌・紙を中心に掲載された。またIR関連情報もWEBメディアを中心に多数掲載され、ステークホルダーへの幅広い情報提供となった。



2023/9/15
アイムホーム
「F Residence」 設計:彦根アンドレア
施工:ジェイホームズ



2024/1/25
商店建築
「SANU 2nd HOME 一宮1st」
設計:パドル 施工:大和ランテック



2023/9/6
ハウジングトリビューン
良品計画／MUJI HOUSE／
農林水産省
建築物木材利用促進協定を締結



2023/7/25
プレカッユーザー
非住宅リポート
SE構法で最大規模となる非住宅木造建築



2024/3/25
プレカッユーザー
非住宅リポート
佐賀県初のSE構法による大規模木造建築



広報・広告掲載件数

媒体	2023 年									2024 年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
新聞	4	12	9	9	9	7	17	13	7	8	13	7	115
雑誌	5	0	9	8	3	7	4	0	9	5	2	10	62
テレビ・ラジオ	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	3
ウェブ	148	388	296	195	75	175	40	381	80	167	204	96	2,245
計	157	400	314	213	87	189	61	394	97	181	219	113	2,425

事業ポートフォリオ

エヌ・シー・エヌのあゆみ

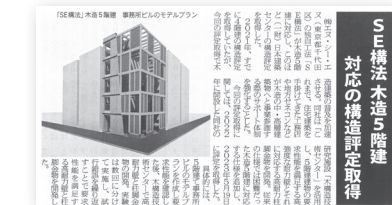
2023年度トピックス

数字でみるエヌ・シー・エヌ

プロモーション活動・広報活動・イベント活動



2023/10/17
読売新聞
部屋単位で地震に強く
「木質耐震シェルター」



2023/7/5
日本住宅新聞
SE構法5階建対応の
構造評定を取得



2023/9/27
日刊木材新聞
トータルソリューションカンパニー
を目指す木構造デザイン



2023/5/10
新建築ハウジング
住宅関連ネットワーク
トップインタビュー



2023/10/25
日刊木材新聞
SE構法で建設したZEH住宅
小田急ハウジング

プレスリリース

2023年度は14件のプレスリリースを配信した。MUJI HOUSEが農林水産省との協定締結は、記者発表会も開催し「SE構法」による木造化の推進が注目された。また、小田急グループ4階建て竣工、木造5階建対応の構造評定取得、大規模宿泊施設の開業、2,500平方メートルの構造現場見学会など、多様化・大型化する大規模木造建築に対応するリリースは、エヌ・シー・エヌの非住宅事業の成長性について業界紙を中心に数多くの媒体に掲載された。

2023/5/29
木造耐震設計事業を展開するエヌ・シー・エヌ、採用サイトのコンテンツを拡充
企業データ、プロジェクトへの取り組みなど活躍のフィールドを具体的に伝える

2023/6/1
エヌ・シー・エヌ関連会社 MUJI HOUSE が農林水産省と「木材利用拡大に関する建築物木材利用促進協定」を締結
独自の建築システム「SE構法」による「無印良品」店舗の木造化・木質化を推進

2023/6/7
東京都城西エリア初の「SE構法・4階建て」竣工
小田急グループの脱炭素・環境負荷低減に向けた取組みに、エヌ・シー・エヌが構造設計サポート

2023/6/14
『ML WELCOME 木の家で暮らそう vol.15』
6月14日発売 特集「デザイン力のある工務店とつくるガレージのある家」
発売記念プレゼントキャンペーンも開催
Instagramフォロー＆コメントで北欧チェアほかプレゼント！

2023/6/22
エヌ・シー・エヌ、「SE構法」による木造5階建対応の構造評定を取得
高強度な耐力壁と高耐力柱脚金物を開発、大規模木造建築の普及型を目指す

2023/7/19
地震から命を守る耐震シェルターを「ヨコハマ防災展示会 2023」に出展
「SE構法」の構造技術を活用、居住デザインに優れた「木造耐震シェルター 70K₂」を実物展示

2023/7/20
エヌ・シー・エヌ子会社 MAKE HOUSE がWEBサイトをリニューアル
設計事務所や工務店のためのDXによる提案力と業務効率向上サポートメニューを強化

2023/9/22
「SE構法×ZEH性能」による「小田急ハウジング 船橋三丁目モデルハウス」オープン
小田急グループの脱炭素・環境負荷低減の取組に、エヌ・シー・エヌが構造設計サポート

2023/11/22
「SE構法」による大規模木造宿泊施設「SANU 2nd Home 一宮1st」開業
エヌ・シー・エヌ、Sanuとの業務提携による構造設計・設計コンサルにてプロジェクト参画

2023/12/14
『ML WELCOME 木の家で暮らそう vol.16』
12月14日発売 特集「未来につながる家」
SE構法住宅11物件を掲載
発売記念プレゼントキャンペーンも開催
Instagramフォロー＆コメントで北欧チェアほかプレゼント！

2024/1/10
エヌ・シー・エヌ、大規模木造店舗の構造現場見学会をMUJI HOUSEと共催
佐賀県初「SE構法」による約2,500平方メートルの大規模木造店舗

2024/1/17
『ML WELCOME 木の家で暮らそう Vol.16』
プロモーションイベント
料理研究家のコウケンテツさんトークショー開催
「コウケンテツさんに聞く 住まいがもたらす豊かさとは？」
1月28日(日)／二子玉川 蔦屋家電

2024/1/29
エヌ・シー・エヌ、建て主が家の強さを選んで構造を注視するシステム「家づくり構造計算ナビ」が特許取得
木造建築物の構造計算のために「家の重さ、屋根の重さ、地震、風、傾き」について建て主が選択し確認できる

2024/2/14
令和6年能登半島地震における「SE構法」による建築物被害調査報告

大規模木造建築 セミナー・見学会

2023年度も設計事務所や建設会社を対象に、大規模木造建築について知識の共有と普及を目的に多数のセミナーや見学会を実施した。

新型コロナウイルスの影響で控えていた見学会はオンライン開催から現地での構造・

完成見学会へと移行。全国各地で木造建築に携わる設計者などが多数参加された。多様化する建築用途別についてケーススタディや、非住宅向け建築資材などについて学ぶセミナーも、木造に取り組もうとする参加者から高い評価を得ている。

特建事業部	
2023/4/21 視聴者数:340人 オンラインセミナー 木造つくる施設建築“環境とデザイン” ゲスト講師:竹原義二氏（建築家）	2023/10/4 視聴者数:210人 大規模木造建築構造現場オンライン見学会 〈川内文化ホール跡地利活用事業に伴う本館ほか新築工事〉
2023/5/23 参加者数:25人 静岡木造塾 中大規模木造の「構造」「耐火」「脱炭素」	2023/10/21 参加者数:19人 中規模木造建築構造現場見学会 〈法蓮町共同住宅〉
2023/6/15 参加者数:68人 福岡木造塾 未経験者でもよくわかる、中大規模木造建築の“ポイント”	2023/11/9 参加者数:24人 広島木造塾 Vol.2 中大規模木造建築の「構造」と「開口部」の考え方
2023/6/27 参加者数:58人 大規模木造建築構造現場見学会 〈川内文化ホール跡地利活用事業に伴う本館ほか新築工事〉	2023/11/27 参加者数:52人 愛知木造塾 未経験者でもよくわかる、中大規模木造建築の“ポイント”
2023/7/4 参加者数:18人 広島木造塾 未経験者でもよくわかる、中大規模木造建築の“ポイント”	2023/11/29 参加者数:68人 大阪木造塾 木造提案をするために知っておきたいこと
2023/8/3 参加者数:5人 中規模木造建築構造現場見学会 〈松筑園園芸店舗新築計画〉	2023/12/1 参加者数:22人 静岡木造塾 Vol.2 中大規模木造建築の「構造」「外壁」「環境問題」
2023/9/24 参加者数:6人 中規模木造建築構造現場見学会 〈ハナダイネック事務所棟新築計画〉	2023/12/7 参加者数:47人 木造3階建て耐火建築構造現場見学会 in 沖縄 〈エナジックススポーツ高等学院学生寮（新築）工事〉
2023/9/26 参加者数:36人 四国木造塾 中大規模木造の「構造」「耐火」「脱炭素」	2024/1/26 参加者数:34人 大規模木造店舗 構造現場見学会 in 唐津
	2024/2/21,22 参加者数:74人 東京木造塾 木造提案のために抑えるべきポイント

木構造デザイン	
2023/6/22 視聴者数:350人 オンラインセミナー 4号特例縮小 2025年の法改正に向け 建築士が準備することとは？	2023/9/13 視聴者数:240人 オンラインセミナー 4号特例縮小 法改正後の木造建築に備える 「設計図書に書き込むべきこと」
2023/7/11 視聴者数:260人 オンラインセミナー 4号特例縮小 法改正後の木造建築に備える 「簡易木造で学ぶ、はじめての仕様規定」	2023/11/13 視聴者数:202人 オンラインセミナー 4号特例縮小 法改正後の木造建築に備える 「構造計算のあり方」

SE 構法施工管理技士 技術研修会・更新研修会

SE 構法はSE 構法技術研修会で、設計・施工基準、手続きなどについて修了した後、試験に合格した正しい知識を持つSE 構法施工管理技士によって施工される。2023年度の技術研修会は、引き続きE-learning形式にて第181回から第192回まで12回開催した。新たに206人のSE 構法施工管理技士が誕生し、2023年度の有資格者総数は合計で1,927人となった。

また、SE 構法施工管理技士は3年ごとに更新研修会を受講することでSE 構法について改めて修学し、最新技術と情報をアップデートする。

2023年度の更新研修会は、オンラインで1回開催し、合わせて399人が受講した。

技術研修会
第181回～第192回（12回開催） E-learning形式（2023年4月～2024年3月）
更新研修会
2024年3月15日～3月31日 オンライン形式

SE 構法登録施工店 勉強会

登録施工店を対象に営業戦略や建築・住宅産業業界の動向など、様々な情報を発信する勉強会を定期的に開催している。

2023年度はオンラインとリアルでの開催となった。リアル開催は4年ぶりに東京、大阪ほか全国7会場で開催し、延べ280人に参加いただいた。また、登録施工店各社からの参加者同志の情報交換の場となった。

今年度は法改正に向けての対応、集客プロモーションについてご提案を行った。また、東京・大阪会場ではゲストとしてSUUMO編集長の池本洋一氏、新建ハウジング代表の三浦祐成氏にご登壇いただき業界の最新情報を共有した。

第67回
2023/8/24
2025年法改正はすぐ目の前！ SE 構法で万全の対策を（オンライン開催） ●木造住宅が変わる ～2025年4月木造の建築基準法改正実施に向けた最新情報と準備のポイント～ ●省エネ基準適合義務化 準備のポイント ～省エネ等級4が必須の時代がやってくる～ ●2025年法改正に向けて、日本最大の工務店ネットワークを活かしたプロモーションで集客しよう

第68回
2023/10/17 参加者数:79人
東京会場 ●住宅業界を俯瞰した立場から見る次なる工務店の経営戦略と集客戦略 ゲスト講師:池本洋一氏（株式会社リクルート『SUUMO』編集長） ●2025年の法改正 壁量計算ビフォーアフター ●素箱とSE 構法のこれまでとこれから ●2025年法改正をチャンスに、万全の対策で集客プロモーション開始へ

2023/10/23 参加者数:94人
大阪会場 ●業界の逆風を追い風にする多層化・多角化・外部化の可能性 ゲスト講師:三浦祐成氏（新建新聞社 代表取締役社長） ●2025年の法改正 壁量計算ビフォーアフター ●素箱とSE 構法のこれまでとこれから ●2025年法改正をチャンスに、万全の対策で集客プロモーション開始へ

2023/10/27 参加者数:24人
名古屋会場 ●2025年の法改正 壁量計算ビフォーアフター ●素箱とSE 構法のこれまでとこれから ●2025年法改正をチャンスに、万全の対策で集客プロモーション開始へ

2023/10/30 参加者数:15人
静岡会場 ●素箱とSE 構法のこれまでとこれから ●2025年法改正をチャンスに、万全の対策で集客プロモーション開始へ

2023/11/2 参加者数:10人
札幌会場 ●2025年法改正をチャンスに、万全の対策で集客プロモーション開始へ

2023/11/6 参加者数:10人
仙台会場 ●2025年の法改正 壁量計算ビフォーアフター ●素箱とSE 構法のこれまでとこれから ●2025年法改正をチャンスに、万全の対策で集客プロモーション開始へ

2023/11/7 参加者数:17人
新潟会場 ●2025年の法改正 壁量計算ビフォーアフター ●2025年法改正をチャンスに、万全の対策で集客プロモーション開始へ

2023/11/9 参加者数:17人
福岡会場 ●2025年の法改正 壁量計算ビフォーアフター ●2025年法改正をチャンスに、万全の対策で集客プロモーション開始へ

2023/11/10 参加者数:14人
広島会場 ●素箱とSE 構法のこれまでとこれから ●2025年法改正をチャンスに、万全の対策で集客プロモーション開始へ

会社概要	
会社名	株式会社エヌ・シー・エヌ
代表者	代表取締役社長 田鎖郁男
設 立	1996年12月11日
従業員数	単体 97人、連結 138人（2024年3月末現在） （構造一級建築士 2名、一級建築士 15名、二級建築士 14名）
事業内容	木造耐震設計事業 住宅分野 ネットワーク展開（重量木骨の家） 住宅分野 ハウスメーカー対応 OEM供給（株式会社MUJI HOUSE） 大規模木造建築（非住宅）分野（特建事業・株式会社木構造デザイン・株式会社翠豊）
その他	省エネルギー計算サービス（温熱計算サービスなど） BIM事業（株式会社MAKE HOUSE）
東京本社	100-0014 東京都千代田区永田町2-13-5 赤坂エイトワンビル7F TEL:03-6897-6311 FAX:03-6770-4228
大阪支店	530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地1-1-49 梅田滋賀ビル TEL:06-6344-0588 FAX:06-6344-0733
免許登録	一級建築士事務所登録 東京都知事登録 第53799号 建設業登録 国土交通大臣許可(特-2)第23620号 宅地建物取引業者免許 東京都知事登録(1)第101790号
関連会社	株式会社MAKE HOUSE 株式会社木構造デザイン 株式会社翠豊 株式会社MUJIHOUSE（無印良品の家） SE住宅ローンサービス株式会社 N&S開発株式会社

2024年4月現在



株式会社エヌ・シー・エヌ 年次報告書2023

発行人: 田鎖部男

発行日: 2024年5月

発行: 株式会社エヌ・シー・エヌ

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-5 赤坂エイトワンビル TEL: 03-6897-6311

©NCN2024 Printed in Japan 禁無断転載複写

www.ncn-se.co.jp/

